

交通対策事業

アナ： 「市長が語る 2022 三島」第 16 回の今日は、「交通対策事業」と題し、三島市の公共交通についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 4 月から三島市が運行しているバスが大きく変わったと聞きましたが、どのように変わったのでしょうか。

市長： まず、錦が丘、東大場、パサディナ地区と大場駅を結ぶ「花のまち号」の運行を新たに開始いたしました。

それから、大場駅を起点として中郷地区内を循環する「なかざと号」や中郷地区と三島市街を結ぶ「ふれあい号」の経路などを変更いたしました。

アナ： 新しく運行を開始した「花のまち号」の特徴はどのようなものなのでしょうか。

市長： 「花のまち号」は、民間のバス会社による「東大場分譲地線」の運行が終了する代わりに、沿線の皆様の生活の足を確保するため運行を開始したものです。

より多くの方に利用していただくために、経路等をはじめ、様々な変更を行っておりますが、最大の特徴は、利用者の多い平日の朝夕はバス車両、それ以外の時間は 10 人乗りのタクシー車両を使用していることです。

通勤通学の時間は、バス車両により多人数の乗車が可能となりますし、タクシー車両は、その小さいサイズを活かして、バス車両では乗り入れが難しいパサディナ地区や函南町の商業施設街を通る経路を走ります。

アナ： 「なかざと号」や「ふれあい号」についてはどのように変わったのですか。

市長： 「なかざと号」と「ふれあい号」は、どちらも経路を大幅に変更したり、延伸をしたりすることで、より利便性を高めました。

「なかざと号」では「ジョイランドみしま」や「伊豆・村の駅」にバス停を新たに設けるとともに、「ふれあい号」の経路を「伊豆・村の駅」まで延伸しましたので、日常の買い物や、観光でも利用していただけるようになりました。また、「伊豆・村の駅」を 2 つの路線の結節点として、「なかざと号」と「ふれあい号」を乗り継いで三島市街との行き来をすることができるようになりました。

アナ： 利便性が高まったことで利用者が増えるといいですね。

市長： そのように願っております。

バスを含む公共交通事業者は、コロナ禍の影響を非常に強く受けておりまして、利用者数は、今でも、コロナ禍前の 7 割程度であると聞いています。

アナ： コロナ禍で、テレワークや車で移動する人が増えましたからね。

公共交通の一翼を担うバス会社に対して、市としてどのような支援をしていますか。

市長： はい。

新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、継続して運行している事業者に対しまして報償金を支給いたしましたほか、バス停で待つ人がバスの現在位置を知ることができる「バスロケーションシステム」やキャッシュレスで運賃の支払いができる「交通系 IC カード」の導入に対する補助を行いました。

これらは、市内で運行するバス路線の多くで導入されており、利用する市民の方からは、大変便利になったとの声を多くいただいております。

アナ： バスの現在位置が分かったり、キャッシュレスで支払いができたりするのはうれしいですね。

市長： 三島市として支援は行っておりますが、利用者が少なれば路線を維持することが難しくなっております。

何よりの支援は、皆さんにたくさん利用していただくことです。

各社とも感染症対策を講じながら運行しておりますので、皆様、安心してバスをご利用いただければと存じます。

アナ： 色々と便利に変わっているようなので、バスを利用してみたくまりました。豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。